ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広 報 委 員 会
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/fukurou/

全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会・作業部会（埼玉、京都、大阪、兵庫の特養）では現在、高齢になり要介護認定を受ける時の調査では、障害支援区分認定より軽度となる介護認定調査の現状を生活状況が正確に反映され適切な介護度になるよう国へ課題提起の準備を進めています。

淡路島で初開催！ RUN伴に参加

11月2日(土)ランニングやウォーキングを通じて、認知症の人々と出会い・繋がりじぶんごととして考え、地域で伴に暮らす大切な隣人であることを知ってもらうためのイベント「RUN伴(ランとも)洲本2019」が淡路島で初めて開催され、入居者2名と職員3名がウォーキングに参加してきました。

洲本こども園の鼓笛隊と合流し「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」と、横断幕とともに、およそ1．4キロメートルを練り歩きました。当日は天候もよく楽しく約70名の方々と歩くことが出来ました。

ふくろうの郷では入居者や職員が応援の部でオレンジ色のものを身につけて参加しました。

寒い中でしたが、応援をお願いすると多くの入居者が玄関前まで集まってくれました。ランナーの車が来るのを今か今かと待ちわび、車が見えると応援旗を持った手を高く上げながら力いっぱい振っておられました。ランナーが車から降りてくると拍手で迎え、「お疲れさま！」の声が飛び交います。ランナーさんと一緒に写真を撮り、一人ひとりと握手・「頑張ってね」と声を掛けあうと、車が見えなくなるまで旗を振って見送っていました。

風の強い日でとても寒かったのですが、終わるころには「心ぽかぽか」のひと時でした。

顔の見えるつながりをモットーに活動されている団体であり、今後も当施設として積極的に参加していきたいと考えています。

（生活援助主任　加野明宏）

▲ランナーを出迎える入居者さんたち

～菜の花手話同好会　交流会～

11 月 20 日(水)月川ユニットで生活されている谷口忠男さんが在宅生活されていた頃にご夫妻で通われていた菜の花手話同好会(香川県坂出市)のメンバーの皆様が総勢 21 名でお越しになられました。

福嶋会長様が谷口さんと出会ってからの関わりを紙芝居にして作成してくださり、谷口さんはじめ皆さんに披露してくれました。また、別のメンバーの方は谷口さんのご自宅の写真を撮影して持参され、谷口さんに「懐かしいやろ」と語りかけておられました。限られた時間ではありましたが、入居前の職員が知らなかった谷口さんの一面と人柄を垣間見ることができました。遠路はるばる来訪ありがとうございました。（生活相談員　瀬田栄美）

紙芝居を手話で話される菜の花手話同好会の福嶋会長様（左）←

ふくろう物語 長岡 保さん

苦楽も家族と共に

大正14年5月15日、東浦で7人兄妹の次男として生まれました。中学を卒業後、漁師の仕事をしながら、夏場は民宿を経営していました。20代後半で結婚され、2人のお子様に恵まれました。奥様と次男と3人で漁に出ておられたそうです。

27歳の頃、目が見えなくなり始めます。その後40代で盲学校に入学し、マッサージ師の資格取得に励まれました。マッサージ師として働き始めると、人柄の良さが評判を呼び、長岡様の所へ通われるお客様もいたそうです。「目は見えないが『格好良い』と女性から人気だった」と笑って話されていました。

60歳頃、全盲になるとデイサービスへの通所を始めました。しかしその後、様々な病気にかかり、入退院を繰り返します。退院後は白寿苑に入所しましたが退所され、長男と一緒に暮していました。けれども徐々に家での生活も難しくなり平成28年6月1日にふくろうの郷へ入所されました。

ハーモニカで和やかに

昔からプロレスや歌が好きで「のど自慢等の番組をよく見ていた」と話されます。見えなくなってからは野球中継を聴くのが楽しみになったそうです。またハーモニカも大好きで、ご自宅にいた頃のように、ふくろうの郷でもよく吹かれていました。

歌の会の日はハーモニカを持参され、得意気に披露しておられました。拍手をもらうと「追加でもう1曲！」といつも周りを楽しませてくださいました。

▼おやつレクを楽しむ長岡さん

▲大勢の家族様と楽しいひと時を過ごす長岡さん

以前は食事も歩行も自分で行っていましたが、最近は脳梗塞や肺炎などを患い、居室でゆっくり過ごされています。それでも気持ちはお元気なままで「100歳まで頑張って！」と話しかけると「そやなぁ！ハハハ！」と笑顔で応えられる長岡さんです。

先日、お孫様がご家族で来所され、元気なひ孫様とも手を握り、とても楽しそうにお話しされておりました。

これからも笑顔が絶えないよう、お手伝いさせて頂きたいと思います。

（生活援助員　廣地美紀）

ふくろう理髪店 ボランティア大募集！

ふくろう理髪店は、美容師・理容師・手話サークル・有志の皆様方のボランティアによって毎月１回月曜日に開店しています。皆楽しみにしておられ「さっぱりしましたね」「おしゃれな髪形ですね」と声をかけると、嬉しそうに微笑まれます。

現在、理容師さんは神戸から１名来てくれていますが、時間的にできる人数が限られてしまいます。ご協力をいただける理容師さんを募集しています。

皆様のご協力のもと、これからもふくろう理髪店を続けていけますよう願います。

災害時に備えて 炊き出し訓練

11 月 6 日(水)に毎年恒例の炊き出し訓練を行いました。入居者の方にも野菜等を切ってもらって施設全員分のカレー、ご飯、お粥をかまどで調理しました、普段とは少し違う食事でしたが皆さん美味しそうに食べていただけました。

（生活援助員　米山賢一）

全聴福研　IN　大阪
～たくさんの学びを得て思う～

▲開会式の様子

学びあい編集員として

3回目の参加になります。私が参加した第7分科会は施設長や各部署主任、ケアマネさんが多かったこともあり、

「私一人で大丈夫か?、言いたいことが伝わるのか？」と、とても不安になりました。質問等もたくさんいただき、自分なりに答えるのに必死でしたが、自分なりの言葉で伝えることが出来たのではないかと思っています。

2日目は他のレポート発表を聞かせて頂きました。とても難しい内容でちんぷんかんぷんでしたが、私なりにレポートを作り、発表することが出来ました。

来年は兵庫で開催されます。レポート発表は大変ですが、とても勉強になるので参加したことが無い人もレポート報告や一般参加してみてはどうでしょうか。

（生活援助員　中村久香）

▲学びあい文庫

初めての参加

私は第4分科会の参加でした。

「八木さんの支援を通してコミュニケーションと行動範囲を広げる。」をテーマにレポート発表をしました。

施設でいろいろな工夫をしていることに、参加者の皆さんから良い内容だった。と、お言葉を頂きました。

また、悩みなども他の施設同士でやり方や工夫など聞き、相談し合えて、

「試してみよう。」と、皆さんで誓い合いました。

有意義な時間を頂き、参加してよかったと思える研修交流会でした。

（生活援助員　伊達美紀）

▲八木さんの陶芸の様子

2日目に参加して

レポート発表は初めての経験だったので、緊張して、参加されている方々に伝える事ができなかったように思いましたが、竹邊さんの暮らしぶりでベッドをリビングに置いてみたこと、通常はソフト食を食べられているが昼食のみキザミ食を提供していることが良かったのではないかという意見を頂くことが出来、嬉しく思いました。

又、「リビングで寝てもらうことは、他の入居者はあまり良い思いをしないのではないか」と言う意見をもらい、これからを考える良いきっかけになりました。

他の施設のレポートも聞き、朝の会が開かれる意味や、大切さ、あり方も学び、実感できましたが続けていく難しさもあるということを知りました。

他のろう施設の情報ももっと知りたいので、1日目に参加できなかったことが残念でした。

（生活援助員　酒井裕子）

▲演劇講座を楽しまれる竹邊さん

気づきと学び

全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会で話し合われてきた聴覚に配慮した施設の重要性についてレポート発表をさせていただきました。

第4分科会「高齢聴覚障害者の介護を考える」では、それぞれの高齢施設の取り組みについて聞かせていただき、多くの刺激を頂きました。

他の施設の状況を聞かせていただいたり、職員の悩みなどを聞く中で新しい発見もありよい機会を得たと感謝しています。今後の取り組みに生かして行きたいと思います。

（生活援助主任　加野明宏）

▲発表を控えた職員の様子

大阪城・あべのハルカス
今昔の建造物に歴史を学ぶ

第４回社会生活教室に 36名　10月19日(土)

当日は心配された雨にも合わず、総勢36名、日常から解放され、大阪を堪能しました。大阪城ではボランティアガイドをお願いしており、初めて訪れる人も多く、興味津々で説明を聞き、参加者は「歴史に触れることができて良かったが、時間がなく天守閣にあがることができなくて残念」と口々に言っていました。午後はあべのハルカスへ行き、展望台や空中庭園を散策。大阪城を見上げる、あべのハルカスから大阪の町々を見下ろす、双方の壮大な建物に昔の人の知恵、現代の技術に参加者は圧倒されていました。久しぶりに参加の佐藤邦弘さんも、知人との再会を楽しんでおられました。（岡本　久子）

▲雄大な大阪城をバックに記念撮影

緊急通報システム（NET119）説明会

11 月 23 日（土・祝）に淡路広域消防事務組合本部で登録説明会が開催。申し込み者が 38 名と多数のため、当初午前中の予定を午後も開催に変更。通報手順について説明の後、個々に登録、練習とスムーズに進みました。今回参加できなかった人は、12 月 1 日以降は淡路広域消防本部に出向き登録できます。まずはセンターまでご連絡ください。

研　修　報　告

ソーシャルワークと刑事司法の連携を考える

10 月 13 日、大阪府谷町福祉センターにて、日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会主催の研修会がありました。

罪に問われた高齢者・障害者の社会復帰支援についてソーシャルワーカーと刑事司法の連携の実情と課題について、日本社会福祉士会副会長の中島康晴氏、大阪地検再犯防止対策室の中川るみ氏、臨床心理士の中尾恵弥子氏よりそれぞれの立場から講演がありました。

○支援者は本人の気持ちやどのような背景があって事件を起こしたのか、その解決方法を一緒に考えていく。自分を否定せずに受け入れられる体験をする。障害者と接する機会を多く持つことで障害者とのかかわり方を知ることも大事である。

また支援していくうえで、指示的にならず当事者と一緒に考えて、問題解決の方法を一緒に探していくことが必要だと感じました。（楠本恵利子）

○ソーシャルワーカーは、「どんな視点に立つかにこそ、問題の根幹はある」と中島氏。目の前にいる相談者の困りごとの解決のみに目を向けるのではなく、困りごとの背景をとらえ、社会を変えていく視点を持たなければならない、とのお話でした。

我々手話通訳者も、通訳場面だけの通訳ではなく、聴覚障害者が生きてきた背景を考え、ともに社会を変えていく視点をもって対応が必要ということでは同じと思いました。（辻　愛子）

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

手話サークルとのギョウザ作り交流

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

手話サークルあわじとは、2ケ月に1度、交流をしています。手作りをしたり、それを使ったゲームをしたり、言葉合わせをしたり、楽しく触れ合っています。

おのころの家の皆さんは、「話をしたい」「聞いてほしい」といった人が多く、サークルの皆さんに優しく接していただき、喜んでいます。

11月21日（木）、ギョウザ作りをしました。4つの班に分かれて作り方、調味の仕方も班ごとにお任せです。包丁で材料を切って、「上手やね！」「いつもしてるの？」「もうちょっと小さく切って！」と、会話も弾み皆さん楽しそうでした。

いざ、試食となると、各々の班とシェアしあってお互いに食べ比べです。他の班が気になるけれど、やはり自分たちの班が一番美味しかったようです。すぐ後の昼食のこと等、気にせずお腹いっぱい食べた人もいたようです。

手話サークルの方と一緒にレク活動をしていきたいと思います。（おのころ家　藤本）

全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会に参加して

11/16～17：立命館大阪いばらきキャンパス

第１分科会「労働と発達を考える」

『労働を通じて共通の言葉づくりをしてコミュニケーションを豊かに』キーワード：地域の住民と交流を深め、共生社会の実現についてのレポート発表をしました。

おたがいさま活動と地域とのつながりに関しては、地主、地域の方に対して、利用者とのコミュニケーションが十分とれているかどうかという面で不安があります。草刈り作業時、特に高齢者で体力が低下している人に対してどのように見守り活動をしていくか、支援員として利用者さんのことをどれぐらい理解できているのか、又、コミュニケーション方法に問題があるのではないかという指摘を受けました。他に作業工程について説明等が足りないという指摘があり、改めて反省しました。（発言者　橋詰一則）

神戸やまぶき財団より車両

11 月 18 日、助成を受けて念願のホンダフリード車を整備する事ができました。本当に助かりました。今まで車いす対応車を利用してきましたが、高齢聴覚障害者にとって、座席が狭く、乗り降りが大変でした。利用者さん達も新しい車両に自分たちが乗れるのかどうかと送迎時間になると気になるようです。交通規則を守って、安全に運転しましょう。（おのころの家：橋詰）

神戸事業所
共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デイサービスセンター
〒652-0897
兵庫県神戸市兵庫区駅南通 5-4 西高架下 16 号
TEL & FAX：〇七八-五七九-〇七五五

第23回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会に参加しました

今回は研修に合わせて、来年兵庫で開催ということで視察も兼ねており、神戸事業所の職員が積極的に参加しました。

全体講演は「これからの福祉を考える～ろうあ者の願いを原点に実践と運動を」と題して、大阪の清田氏と佐藤氏によるトークセッション。大阪の運動の原点を振り返りながらのお話で、大阪がどのように事業を展開して来たのか、興味深いお話でした。最後に来年度開催地兵庫への引継ぎがありました。前回、兵庫で開かれた時は、神戸の事業がまだ社福法人に移行する前で、神戸での開催されたものの淡路の職員の皆さん実行委員を担っておられました。来年は神戸事業所が実行委員を担い、事務局長も決まっています。研修の合間にお話を聞かせていただいたり写真を撮らせていただいたりと慌ただしい実行委員の皆さんや研修参加の皆さんの迷惑にならないように、動くことを念頭に視察させていただきました。実行委員の皆さんはこちらの質問に丁寧に答えてくださり、何よりも来年、私たちがお手本としなければならない姿だと感じました。右も左も分からぬ神戸の職員としては、前回兵庫で開催した時に担当された職員が、現在神戸事業所勤務になっていますので、とても心強く感じていますが、何よりもみんなの心を一つに頑張らねばと痛感しています。いよいよ神戸長田に建設も進みタイミングよく新しい施設が開所していればよいのですが・・・。

全国の皆さんに障害と高齢、子供から高齢、ろうと難聴、すべてを包括したそして地域と共に地域に開かれた「神戸長田ふくろうの杜」をご案内できればと思っています。

（眞木崇江）

▲全体講演の会場の様子

12月・1月ふくろうの暮らし

12/17(火)	クリスマス会
12/18(水)	ふくろう大学 絵手紙
	おのころ屋パン販売
12/20(金)	料理講座・回想法
12/25(水)	餅つき・しめ縄作り
12/27(金)	ふくろう工房 ちぎり絵
1/ 1(水)	互礼会
1/ 2(木)	初詣
1/ 3(金)	初詣
1/ 5(日)	淡路聴力障害者協会新年会
1/ 7(火)	誕生会
	ふくろう大学演劇講座
1/10(金)	ふくろう工房

神戸施設建設募金
目標　1 億円!!

2019.12.1 現在　募金合計額　72,629,372 円
（プレート募金 219 人）

目標 1 億円まで、あと　27,370,628 円

～ 職員募集 ～

★淡路聴覚障害者ｾﾝﾀｰ★
手話通訳士又は、全国手話統一試験合格者

★おのころの家★（就労継続支援Ｂ型事業）
生活支援員・事務補助等

★淡路ふくろうの郷★
介護支援専門員（ケアマネージャー）
介護職員　・　調理員
お気軽にお問い合わせください